

教科	芸術	科目	音楽 I			単位数	2
学科	農業科	履修学年	3	コース		必修・選択	必修
教科書	MOUSA1 (教育芸術社)						
副教材等							

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、正しい知識に裏付けられた、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
------	---

指導の重点	① 発声の基本を学習しながら、歌うことの楽しさを感じる心を育てる。 ② 基本的な楽典を習得し、読譜力を育てる。 ③ 楽器に応じた奏法を身に付け、視奏力の充実とともに個性豊かな表現の育成を目指す。
-------	---

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	時間	評価方法
	1 学期 (22)		独唱曲を歌う	・腹式呼吸による発声で歌う。 ・正確なリズムと音程で歌う。 ・日本語だけでなく、ドイツ語、イタリア語等原語で歌うことで、各特徴を捉える。 ・演奏に関する基礎的な楽語を習得する。	1 1
		器楽曲に触れる① — ギター弾き語りに挑戦 —	・器楽の基本的な奏法を習得する。特にギターの基本的な奏法を学習し、弾き語りに挑戦する。	1 1	・授業の取り組み ・ギター実技テスト
2 学期 (28)		アンサンブルの響きを味わう — 合唱曲を中心に —	・各パートの特徴や役割を理解する。 ・主体的にパート練習をする。 ・アンサンブルのよさを体感しながら合唱する。	6	・授業の取り組み ・グループによる発表
		器楽曲に触れる② — ヴァイオリンに挑戦 —	・ヴァイオリンの基本的な奏法を学び、簡単な楽曲を弾く。	6	・授業の取り組み ・実技テスト
		西洋音楽の流れについて学ぶ	・DVDの鑑賞を通して、西洋音楽の流れをつかむ。	6	・プリントの提出
		日本の伝統音楽の流れについて学ぶ 器楽曲に触れる③ — オカリナに挑戦 —	・日本の伝統楽器の正しい奏法を学び、併せて他国の音楽との違いをつかむ。 ・オカリナの基本的な奏法を学ぶ。 ・オカリナ独特の響きを感じ取る。	4 6	・授業の取り組み ・プリントの提出 ・授業の取り組み ・実技テスト

3 学期 (20)	アンサンブルの響きを味わう — ハンドベルを中心に —	・ハンドベルの演奏方法を学ぶ。 ・グループを決め、選曲をする。 ・楽曲全体の流れを感じながら、アンサンブルをする。	8	・受業の取り組み ・グループによる発表
	創作に挑戦しよう	・音階の特徴を生かし、自己のイメージにあった音楽を作る。	5	・発表
	全体合唱	・全員合唱	7	・授業への取り組み
計 70 時間 (50 分授業)				
評価規準と 評価方法	音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技 能	鑑賞の能力
	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図ができる。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
[評価方法] 以上の観点を踏まえ、 ・ 授業の取り組み（演奏活動への参加の仕方や態度） ・ 実技テストや演奏発表の内容 ・ ノートへの学習のまとめ、活動記録表、プリントの内容 などから、総合的に評価する。				
学習の ポイント	<p>・ 個々の音楽経験（ピアノを習っている、吹奏楽部や合唱部に所属等）によって技術的な力の違いがあります。音楽は表現・鑑賞・創作と様々なアプローチがあります。その様々な分野に新たに挑戦するつもりで取り組んでください。評価は結果だけでなく、習得していく過程も大切に評価します。1 回 1 回の授業を大事に意欲的に取り組んでください。</p> <p>・ 興味あるものだけでなく、いろいろなジャンルの音楽にチャレンジし、音楽を通して自分を表現する楽しさを感じ取れるようになることを期待しています。</p>			

令和 5 年度シラバス

芸 術 (書道 I)	履修学年	3 学年	履修学科	農業科
	単位数	2 単位	履修コース	

1. 科目の概要

学習目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。		
使用教科書	東京書籍『書道 I』	補助教材	教育図書『新版 応用ペン習字』

2. 授業計画と学習内容

学期	月	授業計画	学習内容	時間	備考
1 学 期	4	□ ガイダンス □ 基本用筆と技法研究 □ 漢字の学習 (楷書) ① 九成宮醴泉銘	<ul style="list-style-type: none"> 書写と書道の違いを知る 書道用語を理解する 平仮名の字源を考え知る 筆の使い方と可能性、墨の状態 で表現に変化があることを知る 楷書の成立と基本を知る 鑑賞と臨書 	2 (50) 2 (50) 2 (50)	毎時間、最初の 10～15 分間はペン習字に取り組む
	5	1 学 期 中 間 考 査			
		② 孔子廟堂碑 ③ 雁塔聖教序 ④ 自書告身	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞と臨書 鑑賞と臨書 鑑賞と臨書 	6 (50)	
	6	1 学 期 期 末 考 査			
		⑤ 牛概造像記 ⑥ 鄭義下碑 □ 漢字の学習 (行書) ① 蘭亭序	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞と臨書 鑑賞と臨書 行書の成立と基本を知る 鑑賞と臨書 	4 (50) 6 (50)	
	7	② 風信帖 ③ 争坐位文稿 □ 競書大会 [1] [2]	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞と臨書 鑑賞と臨書 鑑賞と臨書 作品古典を決定し練習する 	4 (50)	
	2 学 期	8 9	競書大会 [3] □ 漢字の学習 (草書) □ 漢字の学習 (隸書) □ 漢字の学習 (篆書)	<ul style="list-style-type: none"> 出品作品を完成させる 草書の成立と基本を知る 鑑賞と臨書 隸書の成立と基本を知る 鑑賞と臨書 篆書の成立と基本を知る 鑑賞と臨書 	

	2 学 期 中 間 考 査			
	10	□篆刻の学習	・ 姓名 4 字の白文印を刻す	12 (50)
	11	□漢字仮名交じりの書の学習	・ 生活の中の書に目を向ける ・ 様々な要素による表現の広がりを知る ・ 古典を生かして創作する	4 (50)
	2 学 期 期 末 考 査			
	12	漢字仮名交じりの書の学習	・ 古典を生かして創作し作品を完成させる	6 (50)
3 学 期	1	□仮名の学習	・ 仮名の成立と基本を知る ・ 仮名の筆使いを知る ・ 鑑賞と臨書	8 (50)
	2	学 年 末 考 査		
	3			

計 70 時間 (50 分)

3. 評価について

	① 書への 関心・意欲・態度	② 書表現の 構想と工夫	③創造的な 書表現の技能	④鑑賞の能力
評価の観点	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書表現の諸要素を感じ、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付けている。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
	以上の点を踏まえ、 ・ 授業の取組 (授業態度、表現活動への参加状況、発表の様子など) ・ 毎時間の提出作品、ペン習字、プリント課題 などから、総合的に評価します。			
関連する検定	日本書写技能検定協会『硬筆・毛筆書写技能検定』			
担当者からの メッセージ	小・中学校で学んできた書写を生かしつつ、書道というジャンルに積極的に挑戦してもらいたいと思います。表現・創作・鑑賞・コミュニケーションなど様々な活動を通し、自分の中にあるものを存分に表現できる楽しさを味わってもらいたいと思います。また、定期考査は実施しませんが、毎時間の提出物と取組姿勢が評価対象となります。毎時間の学習に真剣かつ丁寧に取組み、卒業後は社会で評価される書写能力を身に付けていけるよう、努力しましょう。 (担当:芳賀 祐子)			